

歯科治療室

1. スタッフ

歯科医師（歯学部第一口腔外科助教兼任）1名

：磯村恵美子

歯科衛生士3名(2月より2名が特任常勤歯科衛生士)

2. 診療内容(対象は入院中の患者さんに限定)

当室での治療の目的は、入院中の患者さんが原疾患の治療に専念できるよう歯科的サポートをすることである。具体的には以下のとおりである。

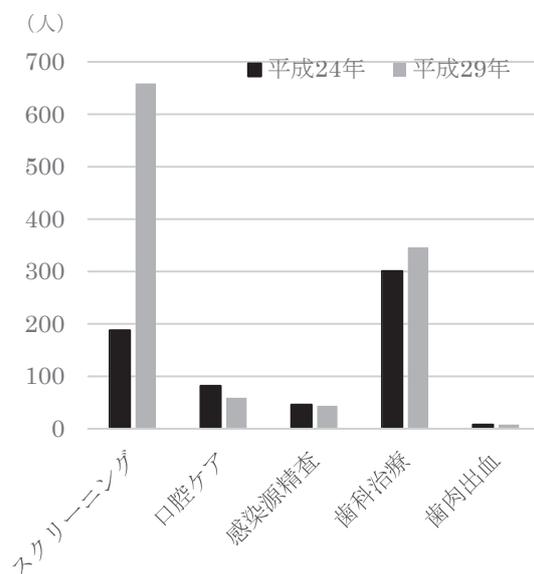
- (1) 一般歯科治療（義歯やブリッジなどの技工が必要となる補綴物は、平成26年度10月より長期入院患者さんに限り作成できるように変更）
 - (2) 化学療法や放射線療法中の口腔ケア
 - (3) 頭頸部領域、呼吸器領域、消化器領域等の悪性腫瘍の手術、臓器移植手術または心臓血管外科手術等の周術期口腔ケア
 - (4) 各病棟で口腔ケアが困難な症例の補助的ケア
 - (5) 免疫抑制予定及びビスホスホネート剤やランマークなどの骨吸収抑制薬使用予定の患者さんの歯科的感染源の有無の評価とその除去
 - (6) 歯学部附属病院との連携による顎骨骨折治療（高度救急救命センター入院患者など）
 - (7) 骨髄移植前の歯科的感染源の除去、全照射に対する粘膜炎予防用のマウスピース作成、移植後1か月間の患者さんを対象とした病棟回診と口腔ケア
- その他、歯学部附属病院咀嚼補綴科と術前から連携し、口腔癌術後早期にシーネや顎義歯を製作することで、患者さんの早期社会復帰を目指している。

3. 診療体制

対象は入院患者さんに限定しているので、病棟主治医からの紹介のみ受け付けている。診療スケジュールは平日9時～17時（水曜日は14時まで）でその他の時間帯は応相談となる。歯科医師1名のため、学会等で不在の場合は、歯学部附属病院からの代診医に診療を依頼する（平成30年4月より2名体制の予定だが、代診医制度は継続）。

4. 治療実績

前述の治療内容の中でも、近年全国的に(2)(3)(7)の周術期口腔ケアや(5)の骨吸収抑制薬投与前のスクリー



平成24年と平成29年の
新規紹介患者の紹介目的の変化

ーニングの重要性が注目されるようになり、当室でも周術期口腔ケアや(5)の骨吸収抑制薬投与前のスクリーニングの重要性が注目されるようになり、当室でも年々患者数が増加している。新規紹介患者の紹介目的を5年前の平成24年と比較すると、入院中の歯科的トラブルで歯科治療目的で紹介される患者数は著変がないものの、周術期や骨吸収抑制薬投与前のスクリーニングを目的とする紹介が3倍になっている（上図）。周術期ケアとは、いわゆる狭義の口腔ケア「歯磨き」だけでなく、手術、放射線療法、化学療法前の患者さんの口腔内の感染源除去が重要なポイントであるため、入院後の治療前という短期間に抜歯、カリエス治療、歯石除去などの治療を完了させなければならない。

5. その他

当室では以下の臨床研究を行っている。

- (1) 抗癌剤および分子標的薬使用後の口腔粘膜炎に対する、レーザー照射の安全性についての検討
- (2) 周術期口腔機能管理の効果及び効果予測因子に関する後ろ向き観察研究
- (3) 口腔機能に関する退院時患者アンケート調査
- (4) 食道がん術後肺炎予防に対する口腔管理の有効性に関する多施設共同後向き研究